

場所	分類
原子炉建屋内 RB	1 時間
タービン建屋内 TB	2 距離
R ZONE R	3 遮へい
Y ZONE Y	4 線源の除去
G ZONE G	5 遠隔、ロボット化
その他( ) Z	6 汚染拡大防止
	7 その他

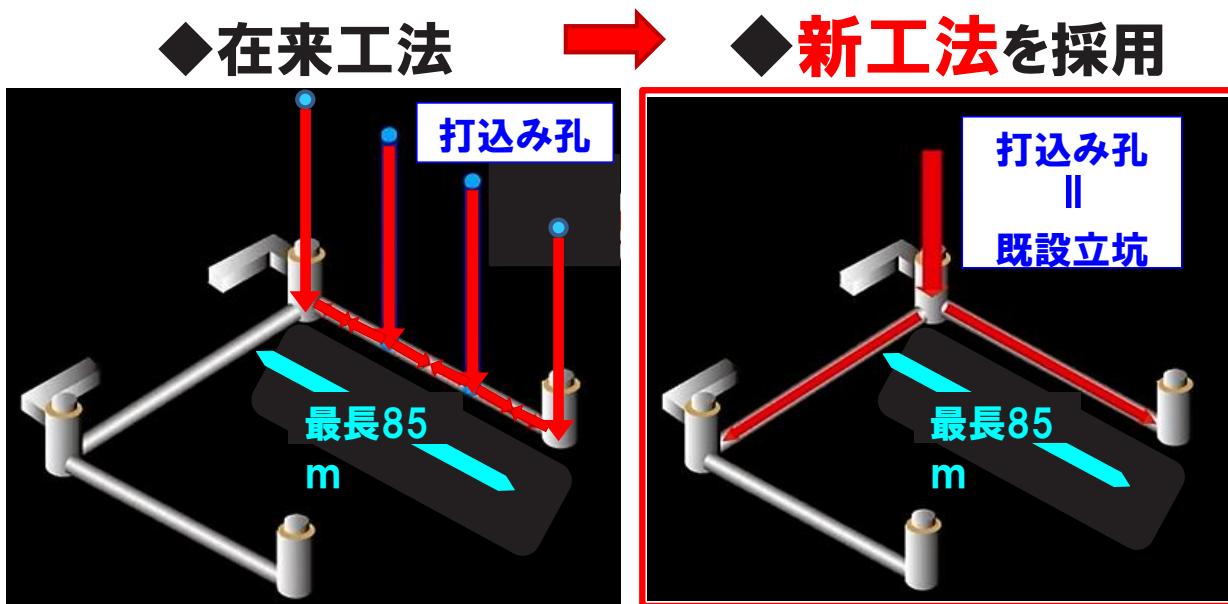
## 被ばく低減対策好事例集

R	7	番号	29-22
内 容	超流動コンクリート材の開発・使用による作業量削減		
作業部位	3号機タービン建屋海側		
概 略	超流動コンクリート材を開発したことにより、新たなコンクリート打ち込み孔の掘削を省略でき、その結果、埋戻し等の作業も削減することができた。		
評価 (定性)	効果	対策前	対策後
	被ばく線量(mSv)	相対値1.0	相対値0.25
	人工数(人日)	--	--

### 事例詳細

対策前 従来のコンクリートでは、水平部の流動性が悪く、新たなコンクリート打ち込み孔を掘削する必要があった(下図左)。

対策内容 流動性の高いコンクリートを開発することで、新たなコンクリート打ち込み孔の掘削を省略できた(下図右)。



### ◆長距離水中流動充填材の性能を生かした施工

- ・中間打ち込み孔の省略  
削孔、打込み、高さ計測、あと埋めの追加作業ゼロ

- ・最小限の人員配置  
1箇所からの打込み:省人・省力化施工

被ばく線量 : 約75%削減